

令和元年度 一番茶萌芽・生育状況報告

佐賀県茶業試験場

1. 萌芽期

本 年	前 年
3月28日	3月30日

注) 平成30年度より作況調査ほ場を変更したため、前5ヵ年平均はなし (以下同様)

2. 生育状況

調査日	4月5日	4月10日	4月15日	4月20日	4月25日	
芽長 (cm)	本 年	1.28 ± 0.34	2.82 ± 0.61	4.56 ± 0.79	7.75 ± 1.05	10.56 ± 1.42
	前 年	2.25 ± 0.57	4.28 ± 0.95	7.63 ± 1.22	10.39 ± 1.57	13.59 ± 2.04
葉数 (枚)	本 年	0.45 ± 0.32	1.38 ± 0.45	2.41 ± 0.41	3.36 ± 0.39	4.35 ± 0.43
	前 年	1.04 ± 0.38	1.51 ± 0.38	2.51 ± 0.50	3.35 ± 0.40	4.40 ± 0.40

3. 晩霜と最低気温

終霜月日	本年	4月13日 (3.6°C)	前年	4月8日 (1.5°C)
最低極温	本年	1月4日 (-3.2°C)	前年	1月27日 (-5.2°C)

注) 終霜月日は日最低気温4°C以下を目安に判断

4. 供試茶園の概況 (平成30年度より作況調査ほ場を変更)

- (1) 品 種 名: やぶきた
- (2) 樹 齢: 18年生
- (3) 樹 高: 73cm
- (4) 株 張 り: 156cm
- (5) 栽植様式: 畝幅 180cm、株間 50cm、条間 50cm (二条植え)
- (6) 施肥量: N : P : K = 50 : 20 : 18 kg/10a (年間7回分施)

5 . 概要

1) 気象条件 (茶業試験場内観測)

(1) 気温

1月から4月の平均気温は、1月上旬は前5ヵ年平均よりも低かったが、1月中旬から3月下旬までは前5ヵ年平均よりも高く推移した(3月中旬は除く)。4月上中旬は前5ヵ年平均よりも低く推移し、4月下旬は前5ヵ年平均並みであった。

(2) 降水量

1月から4月の降水量(積算値)は、1月40.5mm(前5ヵ年平均比57%、以下同様)、2月122.0mm(137%)、3月145.5mm(103%)、4月121.5mm(54%)であり、2月は前5ヵ年平均よりも多く、1月および4月は前5ヵ年平均よりも少なかった。特に、新芽生育期間の3月中旬から4月中旬までの降水量は、前5ヵ年平均比33%と非常に少なかった。

1月から4月までの期間降水量は前5ヵ年平均比82%であった。

(3) 日照時間

1月から4月の日照時間(積算値)は、1月132時間(111%)、2月112時間(91%)、3月182時間(105%)、4月195時間(118%)であり、1、3、4月は前5ヵ年平均よりも多く、2月は前5ヵ年平均よりも少なかった。

(4) 降霜

作況調査ほ場において、一番茶萌芽後の4月3日に低温(最低気温0.9)に遭遇したが、被害はみられなかった。

2) 萌芽・生育状況

本年の萌芽期は、3月28日で前年より2日早かった。

萌芽前後の生育は、萌芽後に前5ヵ年平均より低い気温が続いたことで新芽の初期生育は前年よりも遅れた。4月8~10日に降雨(合計41.0mm)があったことで開葉は前年並みとなったが、芽の伸長は前年よりも短く推移した。

萌芽から摘採までの所要日数は、28日間(積算温度384)で前年の27日間(積算温度410)より1日長かった。

3) 病害虫の発生状況

作況調査ほ場で一番茶の生育および収量に影響を及ぼすほどの病害虫の発生はなかった。

令和元年度 一番茶実収報告

佐賀県茶業試験場

1. 摘採日

本 年		前 年	
4 月 25 日		4 月 26 日	

注) 平成30年度より作況調査ほ場を変更したため、前5ヵ年平均はなし (以下同様)

2. 生葉収量 (kg/10a)

本 年		前 年	
収 量	指 数	収 量	指 数
576.8 ± 78.6	83	691.8 ± 26.8	100

注) 指数は前年を100とした値 (以下同様)

3. 百芽重 (g)

本 年		前 年	
重 量	指 数	重 量	指 数
81.8 ± 6.8	99	82.3 ± 5.1	100

4. 新芽数 (本/m²)

本 年		前 年	
芽 数	指 数	芽 数	指 数
1228 ± 90	93	1316 ± 165	100

5. 出開度 (%)

本 年		前 年	
32.6 ± 6.9		30.4 ± 6.6	

6．作況調査園の概要

1) 摘採日

摘採日は、4月25日で前年より1日早かった。

2) 収量

本年の生葉収量は、577kg/10aで前年より約17%少なかった。

本年は、前年と比較してうね中央部の生育が特に遅く、生育差が大きかったことから標準偏差(79kg/10a)は前年よりも大きかった。

7．本県の概要

1月から3月にかけての平均気温が前5ヵ年平均よりも高く推移したことで芽の動き出しも早く、萌芽期は前年よりも2日早くなった。

しかし、新芽生育期間の4月上旬から中旬にかけて前5ヵ年平均よりも低い気温が続いたことで生育が緩慢となり、特に芽の伸長が遅れた。その後、気温の上昇や降雨もあり生育は順調に進み、百芽重(前年比99%)は前年並みだったが、新芽数(前年比93%)が前年よりも少なくなったことから収量は少なくなった。

病害虫については、一番茶の生育、収量に影響を及ぼすほどの発生はみられなかったが、晩生品種においてツマグロアオカスミカメによる被害芽が観察された。

(参考)

気象概況 (2019年1月上旬～4月下旬、嬉野市)

観測点：嬉野アメダスポイント

